

筑波大学特別講義

～ 大学と学問～

開設区分	総合科目 I (大学院共通科目としても開設)
開設学期・曜日時限	春 AB 水曜日 6 時限 (16:45~18:00)
科目責任者	直江 俊雄 (芸術系 准教授)
	真田 久 (体育系 教授)
	矢澤 真人 (人文社会系 教授)

◆ 筑波大学特別講義について 副学長(教育担当) 阿江通良 教養教育機構長



運動やスポーツにうまくなるコツは、まず最初にうまい人をよく観察し、まねることであり、とされています。このことは、学問でも同じであり、まず最初は高い成果をおさめている方々から学問だけでなく、生き方や考え方(哲学)を学ぶことです。

本講義では、本学の学長をはじめとする経験豊かな講師陣が、大学・学問・そして人生について広いテーマで講義をおこないます。

受講生みなさんに、大学で学ぶべきことや自分の今後の生き方についてじっくりと考えてみる機会を提供するとともに、明確な目的意識をもって自律的に学習していくことができるように、大学生活と学問への道案内をすることを目的としています。

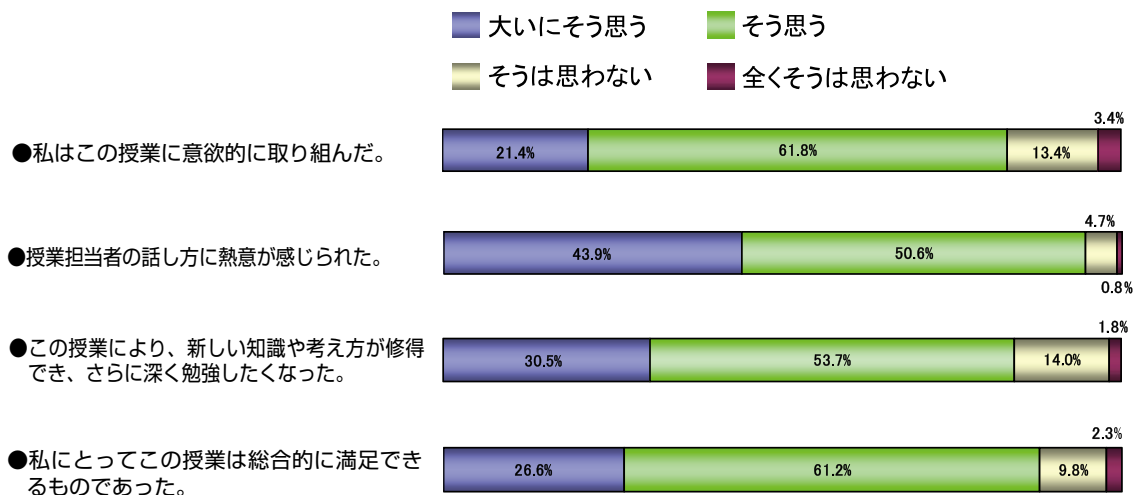
学長をはじめとする本学に関係する優れた研究者が、自らの学問と人生体験を語るることにより、日本および世界において次世代の指導者となりうる有能な若者を育成する機会ともしており、本講義では、総合大学としての本学の広くて深い学問の特徴を活かし、幅広い学問分野を学ぶことができます。

受講した学生からの反響

受講者アンケートからも分かる様に、講師陣の熱意あふれる講義は大半の受講生にしっかりと届いています。そしてその結果たくさんの受講生達が「新しい知識や考え方が習得できた」「満足できる講義だった」と評価しています。

これまでの講義では質疑の挙手が後を絶たず、時間の関係で終了した後もステージに学生が駆け寄り個々に質問する場面が見られるなど、大変好評でした。この特別講義の感動を、今度は是非あなた自身が体験してみてください！

2012年筑波大学特別講義受講者アンケート結果から (受講者数 約 600人)



講師陣紹介

第1回
4/17



柳沢 正史

筑波大学 教授、筑波大学 分子行動科学研究コア 研究統括、
テキサス大学サウスウェスタン医学センター分子遺伝学 教授、
ハーワードヒューズ医学研究所研究員

プロフィール 1985年筑波大学医学専門学群卒業、1988年筑波大学基礎医学系博士課程修了(薬理学)。筑波大学講師、京都大学講師を経て1991年渡米し、現在テキサス大学教授兼ハーワードヒューズ医学研究所研究員。2010年4月より筑波大学教授を兼任し、内閣府最先端研究開発支援プログラム(FIRST)中心研究者として筑波大学分子行動科学研究コアを設立。2012年12月1日より文部科学省世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)に採択され、国際統合睡眠医科学研究医科学機構(IIS)の機構長として、睡眠・覚醒の更なる研究・解明を行う。筑波大学大学院生の時に心血管系の重要な制御因子「エンドセリン」を世界に先駆けて同定、テキサスでは神経ペプチド「オレキシン」を発見し、単一の脳内物質により睡眠覚醒が制御されていることを示した。

授業概要 **睡眠・覚醒の謎に挑む** 「なぜ眠らなければならないのか?」「そもそも眠気とは何か?」といった誰もが抱く疑問は未だに解明されていない。日米両国で最先端の研究を行ってきた経験を踏まえ、現在筑波大学で行っている睡眠・覚醒の根本的メカニズムの解明に関する研究について紹介する。

第2回
4/24



永田 恭介

筑波大学長

プロフィール アルバート・アインシュタイン医科大学博士研究員、スローンケタリング記念癌研究所研究員、国立遺伝学研究所助手、東京工業大学助教授、同教授を経て、2001年から筑波大学教授、2009年から学長補佐室長。2013年より学長就任。専門は、分子生物学、生化学、ウイルス学。1993年日本ウイルス学会杉浦奨励賞受賞。著書に、「ウイルスの生物学(羊土社)」、「ウイルス実験プロトコル(メジカルビュー社)」等多数。

授業概要 **大学と学問** 科学と技術の進歩は、人類社会に大きな発展をもたらした。しかし、一方ではエネルギー・資源に関する問題、産業・経済に関わる問題、食料、人口構成、格差社会の問題などを生んだ。いずれの問題についても地球規模での認識と解決が必要である。基礎科学から創薬にまで繋がる研究に携わってきた経験と実感を交えて、これからの大学の役割と大学における学問について考える。

第3回
5/1



山海 嘉之

システム情報系・教授、サイバニクス研究センター長

プロフィール 筑波大学大学院(博)、工学博士、日本学術振興会特別研究員、筑波大学講師、助教授、米国Baylor(ペイラー)医科大学客員教授を経て、現職。Cybernetics, Mechatronics, Informatics を中心として、脳・神経科学、行動科学、ロボット工学、IT 技術、システム統合技術、生理学、心理学などを融合複合した人間・機械・情報系の新学術領域「サイバニクス」を開拓し、世界で初めて人間の身体機能を増幅・拡張する装着型のロボットスーツHAL (Hybrid Assistive Limb)を開発した。今国内外で最も注目される研究者の一人である。

授業概要 **最先端人支援技術[サイバニクス]による未来開拓最前線** 新学術領域【サイバニクス：人・機械・情報系の融合複合】は、脳神経系から身体に至る人の機能回復を実現する世界初のロボット医療機器の研究開発など、人や社会のための世界最先端人支援科学技術として展開されている。本講義では、「サイバニクス」による未来開拓最前線について、様々な最新事例を交えて講義する。

第4回
5/8



井畑 滋

(株)鹿島アントラーズ・エフ・シー 代表取締役社長

プロフィール 和歌山市出身。1975年 慶應義塾大学商学部卒業。同年住友金属工業(現・新日鐵住金)入社、大阪プロジェクト開発部長、北陸支社長他(1975~81住友金属蹴球団でDFとして活躍)を歴任した。2008年1月(株)鹿島アントラーズ・エフ・シー入社。取締役、常務取締役を経て2010年7月代表取締役社長に就任。Jリーグ最多タイトル(16冠)と6年連続タイトルを獲得している強豪チーム鹿島アントラーズを引っ張る。

授業概要 **プロサッカーが地域に果たす役割** 地域密着という言葉掲げるJリーグにおいて、アントラーズが成していること、成し得ること、そして成すべきことは何か。あるいは、どういった関係を結んでいくべきなのか。ローカルアプローチの一方、サッカーという競技のグローバル性が地域貢献に寄与できるとすれば何か。一見して相反する「ローカル」と「グローバル」を融合させた「グローバル」のスタンスを有するアントラーズを通して、地域の重要性を考える。

第5回
5/15



夏井 重雄

日露青年交流センター事務局長、元カザフスタン大使

プロフィール 1970年 外務省入省 その後、在ソ連邦大使館、外務省ソヴィエト連邦課、在サンフランシスコ総領事館等において勤務。1996年 ベラルーシ大使館臨時代理大使。1999年 外務省欧州局ロシア課企画官。2001年 欧州局新独立国療室長。2003年8月 在ユジノサハリンスク総領事。2008年6月 駐カザフスタン共和国特命全権大使。2010年10月退任。2011年4月 日露青年交流センター事務局長。

授業概要 **カザフスタンとユーラシア世界** 豊富な石油資源や鉱物資源等を背景に中央アジア随一の経済大国となったカザフスタンは、国内に様々な問題を内包しつつも、ナザルバエフ大統領の強力なリーダーシップの下、ユーラシア的なスケールで外交、経済交流等を展開している。この背景に、広大な草原(ステップ)を舞台にして遊牧を中心に独自の歴史と文化を育んできたカザフスタン固有のユーラシア性、ユーラシア的な感覚を垣間見ることが出来る。

講師陣紹介

第6回
5/22



渡邊 信

生命環境系・教授

プロフィール 国立環境研究所生物圏環境部長、生物圏環境研究領域長を経て、2006年から現職。重油のような炭化水素を作る藻類「オーランチオキトリウム」を発見し、今一番注目を浴びる。世界を代表する研究者の一人です。この発見により、将来、1リットル当たり50円程度でガソリンを生成できる見込みであり、バイオ燃料としての実用化に弾みをつけるものと期待されている。

授業概要 **未来を創造する藻類バイオマス** 油脂作物、廃食用油、動物性油から製造されるバイオディーゼルは、現実的には燃料の既存需要のほんの僅かしか満たすことが出来ない。微細藻類は、燃料の世界的需要を満たす可能性を有する唯一の再生可能燃料資源と考えられている。微細藻類の1種、ボトリオコッカスは光合成を行い石油系オイルである炭化水素を生産する。またオーランチオキトリウムは従属栄養性藻類であるが、高価値の炭化水素を生産する。本講義では、ボトリオコッカスおよびオーランチオキトリウムの高い石油系オイル生産能力とそれを活かすための技術開発の展望を示す。

第7回
5/29



三屋 裕子

(株)サイファ 代表取締役、筑波大学経営協議会委員

プロフィール 筑波大学卒業後、1981年、日立女子バレーボール部に入学。日立、全日本代表の主力選手として活躍し、1983年のアジア選手権で優勝。1984年、ロサンゼルスオリンピックで銅メダルを獲得。

株式会社デン・アローズ代表執行役社長、株式会社シャルレ代表取締役社長を歴任し、現在、株式会社 サイファ代表取締役。日本バレーボール協会理事、筑波スポーツ科学研究所副所長、筑波大学経営協議会委員も務める。

授業概要 **スポーツをプロデュースすること** ビジネスの世界で言われる「三方よし」の理論でプロデュースした「コーチングキャラバン(通称コチキャラ)」など、従来のスポーツの枠にとらわれず、スポーツが社会に貢献できるための仕組みを企画し運営してきた事例を交えて、社会やビジネスに必要なことを紹介します。

第8回
6/5



山本 文彦

筑波大学名誉教授、日本芸術院会員

プロフィール 1937年東京に生まれる。1958年二紀展初入選。二紀展文部大臣賞、二紀展内閣総理大臣賞、昭和会展林武賞、安井賞、金山平三記念美術賞、宮本三郎記念賞等を受賞し、2010年には、「樹想」で恩賜賞・日本芸術院賞を受賞するとともに、芸術界の最高栄誉である日本芸術院会員に選出された。1985年筑波大学教授。現在、筑波大学名誉教授、社団法人二紀会常務理事、社団法人日本美術家連盟理事であり、茨城県牛久市在住の日本を代表する洋画家である。

授業概要 **美・術のひろがり** 絵画を軸にして、制作・鑑賞等の美術活動の内容と、社会への展開を概説します。

美とは何か、術とはどういうものか。アルタミラ壁画からモナリザ、マンガまで多様な表現様式の変遷、作品制作の内容、作品の行方、著作権、美術教育、美術団体等社会における美術活動のひろがり、文化芸術振興法など行政の視野等々、美術活動の内容と広がりを、画家としての経験を通して語ります。

第9回
6/12



竹村 牧男

東洋大学長、筑波大学名誉教授

プロフィール 文化庁宗務課専門職員、三重大学助教授、筑波大学助教授、教授、1993年「唯識思想論攷_三性説の哲学的究明」で東大文学博士。2002年東洋大学文学部教授、2009年9月より東洋大学学長。

2003年より東京 芝の青松寺において、毎月第4水曜日に 仏教文化講座「『正法眼蔵』に学ぶ」の講義をなされている。『唯識三性説の研究』春秋社、「西田幾多郎と鈴木大拙」大東出版社、「正法眼蔵講義一現成公案・摩訶般若波羅蜜一」大法論叢、「入門 哲学としての仏教」講談社現代新書、「成唯識論」を読む』春秋社、ほか著書多数。

授業概要 **日本人の哲学-空海から西田へ** 環境問題や格差の問題など、混迷を深めている地球社会に関して、新たな秩序の構築が切実な課題になっているが、それには確かな哲学がなければならない。

西洋近代合理主義主導の社会システムが破綻した今日、東洋や日本の思想がもう一度、顧みられるべきである。日本には哲学がないと言われるが、実はスケールの大きい、深い哲学も存在している。その中、主に空海や西田幾多郎らの哲学を紹介し、その未来への可能性を考察する。

第10回
6/19



吉田 和正

インテル コーポレーション セールス&マーケティング 統括本部 副社長 兼
インテル株式会社 代表取締役社長、筑波大学経営協議会委員

プロフィール 1984年にインテル コーポレーションに入社。マイクロコンピュータ製品マーケティング事業部に配属。OEMプラットフォーム・サービス事業部、コンシューマー・デスクトップ製品事業部、エンタープライズ・サービス事業部部長などの要職を歴任後、2000年にインテル株式会社 通信製品事業本部長に就任。2003年にインテル株式会社 代表取締役共同社長に就任。2004年からはインテル コーポレーション セールス&マーケティング統括本部 副社長を兼任。2008年インテル株式会社 代表取締役社長 就任。

授業概要 **パッション! 出でよ若者たち** わが国、日本は岐路に立っている。イノベーションを通じて世界のリーダーとして再び立つことができるか否か。そのカギを握るのは、将来を担うあなた達である。本講義では、テクノロジーによる世界のイノベーションの潮流と、その中で日本の可能性を考察するとともに、若くしてグローバル社会に飛び込むことでキャリアを築いてきた講師の来歴を踏まえて、あなた達若者の大きな可能性と、グローバル社会において求められる人材像について語る。